公益財団法人 淡海環境保全財団

あすの淡海

自然と人との共生をめざして

VOL. 47

2024 秋号

びわ湖のヨシ原のはたらきを知ろう

びわ湖のヨシ原のはたらきを知ろう

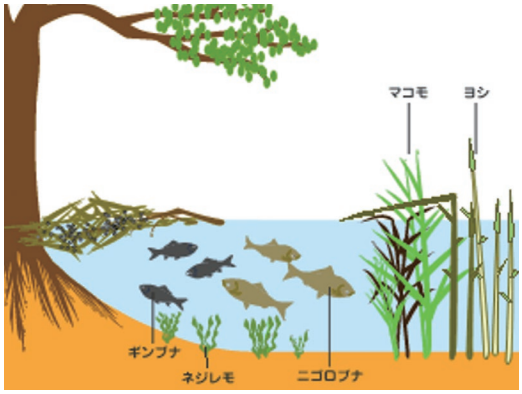
ヨシはアシ（葦）とも呼ばれ、川、湖、沼など水辺に生えている植物です。日本では、北海道から沖縄までの水辺で見ることができます。琵琶湖のヨシ群落は湖国滋賀の原風景であるとともに、古くから県民の生活と深い関わりがあります。

ヨシは、イネ科の植物で秋には穂をつけてその中に小さな種をつくりますが、野生のもので種から大きくなるものは稀であり地下茎を張り横に広がって増え大群落をつくります。冬の間、土の上の部分は枯れますが、地下茎は土の中で生きており、春に地下茎から新しい芽が出て大きく成長する多年草です。

ヨシ原のはたらき

ヨシ原には、主に次の3つのはたらきがあります。

様々な生き物のすみかになる



ヨシ群落には、フナ、コイ、ホンモロコなど様々な魚がすんでいますが、特に、びわ湖の固有種であるニゴロブナは、毎年春ごろにヨシ原で産卵し、孵（ふ）化した稚魚はヨシ原で成長します。ヨシの根元は餌（えさ）となるプランクトンが豊富であったり、外来魚等の天敵から身を隠すために、ヨシ原は最適です。

また、オオヨシキリやカイツブリなどの鳥やカヤネズミなどの哺乳（ほにゅう）類もヨシ原に巣を作り、子育てします。このようにヨシ原は、生き物にとって安全で餌も豊富にある「命のゆりかご」です。

びわ湖の水をきれいに保つ

びわ湖には多くの河川が流入しており、大雨などのとき汚れた水がびわ湖に流れ込んでしまいます。しかし、湖岸にヨシがあるところは水の流れを緩やかにして汚れを沈降（ちんこう）させる、いわばフィルターのような役割をしています。また、ヨシの根元には多くの微生物がすみ、その微生物が水の汚れを分解したり、ヨシが成長する段階で窒素（ちっそ）やリンといった有機物を根から吸収することで、びわ湖の水をきれいに保つことに役立っています。

人の生活に役立つ

昔は冬になると、人はヨシを刈り取り、軽くて水はけや耐久性が良いことから、屋根の材料に使われてきました。また、家の中でも障子、衝立など様々な形で生活に利用してきました。現在でも、皆さんの中に「すだれ」や「よしず」を使われている方がおられるのではないでしょうか。最近では、ヨシ紙や腐葉土、食品、ユニフォーム、工作などにも使われています。

ヨシ原の保全

ヨシ原は、人が手を入れないと衰退してしまいます。この保全には、ヨシを刈り取り、その後「火入れ」という作業を行う必要があります。このことで地面が更新し、翌年のヨシの芽出しが促進され、背丈の揃った良質のヨシが生え、産業にも利用することができます。今後も、健全なヨシ群落を維持するためには、「守る」取組と「活かす」取組の好循環をつくることが大切です。

ヨシとふれあう

ヨシ原は、びわ湖における生物多様性を支える大切な存在です。皆さんも、身近にあるヨシに一層興味をもっていただきたいと思います。当財団では、小学校での「ヨシ環境学習」のほか、ヨシ植えやヨシ刈りの「ヨシふれあい事業」を実施していますので皆さんのご参加をお待ちしています。

表紙写真　守山市立玉津小学校でのSDGs学習におけるヨシ苗づくり

滋賀は生物多様性の宝庫

～豊かな自然とともに活力ある滋賀の未来に向けて一緒に取り組みましょう!～

滋賀県では、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する2030年までの基本計画として、2024年3月に「生物多様性しが戦略2024」（以下「しが戦略」という。）を策定し、取組みを進めています。

社会・経済活動と生物多様性の関わり

わたしたちの暮らしは、自然が育むさまざまな恵みに支えられています。例を挙げれば、自然は大気や水、土壌の質を保ち、水や食料、木材、衣類、医薬品を供給し、気候を調節し、自然災害の影響を緩和し、文化を育んでいます。

一方で、生物多様性は国内外で急速に失われ続けています。土地の劣化に伴う生産性の低下、花粉媒介者の減少、沿岸部での洪水リスクの上昇など、その影響は既に各所で顕在化しており、自然やその恵みに依存する世界のGDPの半分超（44兆ドル）は潜在的な危機下にあるとされています。

しかし、同時に、自然への配慮が組み込まれた経済に移行することで、年間10兆ドルのビジネスチャンスや約4億人の雇用を生み出すともされています。

こうしたことから、経済界を含め、国内外で自然への負荷を減らし、生物多様性を回復軌道に乗せるための取組が進められており、しが戦略の策定は、こうした動きに呼応するものです。

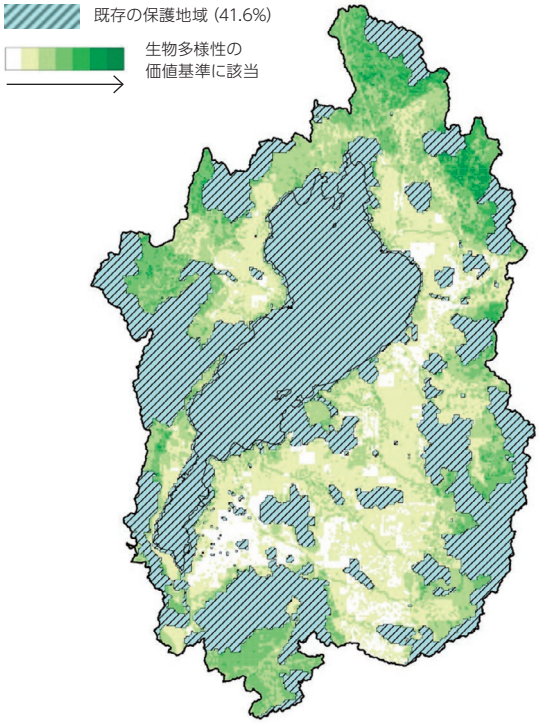
自然と人とが共生する社会の実現に向けて

しが戦略では、2030年の短期目標であるネイチャーポジティブ（自然再興）の実現に向けて、生態系の劣化への対応をはじめ、質と量の両面から取り組みます。

とりわけ、生物多様性の象徴的な保全目標である30by30目標については、国民的資産として滋賀県が預かっている琵琶湖はもとより、法令による保護地域と民間の取組による保全地域（OECM）を合わせて、2030年までに5,000haの増加、長期的には、“琵琶湖+30%”（46.7%）を目指しています。

生物多様性は、レクリエーションやアクティビティなど身近に数多く存在するわたしたちみんなの財産であり、その恵みを次の世代に引き継いでいくマザーレイクゴールズ（MLGs）の一つでもあります。

日常にある生物多様性とのつながりやその恵みを、気候変動への対策や循環経済の推進と一体のものとして、「保全」「活用」「行動」していくという3つの方針の下、滋賀の生物多様性を保全し、社会・経済活動の基盤を確保する取組みをみんなで進めていきましょう！



しが戦略の概要

長期目標（2050年）

自然と人とが共生する社会の実現

森・川・里・湖のそれぞれで多種多様な在来の生きものが見られ、自然の恵みがさまざまな文化や産業を育み、豊かな暮らしを支えている社会

短期目標（2030年）

生物多様性の損失を止め、回復軌道にのせるネイチャーポジティブ（自然再興）の実現

生態系の劣化が抑えられ、回復に向かい始め、外来種の負の影響が軽減し、現在深刻な絶滅の危機に瀕している生きものがその危機から遠ざかる

象徴的な保全目標（30by30）

生態系の劣化に対応するとともに、保護地域および保全地（OECM）を5,000ha拡大

既存の保護地域41.6%

→長期的には“琵琶湖+30%”（46.7%）へ

取組方針

保全　3つの多様性（生態系・種・遺伝子）の保全

活用　自然を守り、活かすことによる社会課題の解決、社会経済活動の推進

行動　身近な生物多様性への気づき、共生社会の実現に向けた土壌づくり

自然と人との共生をめざして

この人に聞く

株式会社葭留　一級建築士

真田（さなだ）　陽子（ようこ）さん

ここ30年でヨシを取り巻く状況は大きく変化しており、当財団でも人とヨシの新たな関係を築くため、関係者が一堂に会する場の設置などの取組みを始めています。このような中、近江八幡市の株式会社葭留は、県内外でヨシ葺（ぶき）屋根・茅葺（かやぶき）屋根の新築、葺替（ふきかえ）、修理などを請け負われており、ヨシ原の保全とヨシ葺屋根の次世代への継承に貢献されています。今回はその職人であり、自らもヨシ葺の家にお住いの真田陽子さんに、台風10号に備えて京都の現場の養生に行かれた帰りに当財団の事務所にお立ち寄りいただき、お話をお聞きしました。

真田　陽子さん

―ヨシ葺職人になろうと思ったきっかけは何ですか。

真田さん　近江八幡市で育ち、その後、安土のヨシ原を見ながら通勤していた時に、西の湖のそばを通りながらヨシ原の景色を眺めていました。“何かすごい、ここには何かある”と感じながら、“一日、こんな場所ですごせたらいいな”と思っていました。私だけでなく、そう感じるという方が時々おられるので、ヨシ原には不思議な力があると思います。建築の勉強をしている中で、古い日本の建物では、雨露をしのぐ屋根に、とりわけ力を注いで作られてきたことや、小屋裏の作りなど屋根の美しさを引き出すための努力を強く感じ、屋根が好きだったのです。それとヨシがある日、自分の中で結びついたことが契機になりました。

―ヨシ葺屋根の葺替や修理の材料はどのように確保されていますか。

真田さん　1月から3月の指先が凍るような寒い時期、西の湖の安土を中心に、地域の方と一緒に、1年分の材料を確保するため、ヨシを刈り取ります。次の新しい芽吹きが出てくるように、刈り取りが終わった段階で火入れをすると、辺り一面真っ黒の大地に蘇ります。春に一斉に芽を出すと、そこは多くの生き物たちのすみかとなり、命を育む大切な場所となります。

― 財団のヨシ学習でもヨシ刈りの必要性を伝えていますが、人が活用しながら保全されてきた西の湖のヨシは、とても特徴的で美しいですね。

真田さん　この地では、産業として続いてきていることが大きいと思います。このヨシ原は、人が手を入れ、製品として育てるという目的をもって管理されているので、密度の高いヨシが育ちます。それが結果として、美しい景観の保全や、人と生きものがすむところのつながりを育んできたと思います。

―ヨシ葺屋根はどのような特徴があるのですか。

真田さん　ヨシ葺きの屋根は時間とともに朽ちていき、ヨシは腐って土に還ります。屋根は、修理や葺き替えが必要になります。ヨシは毎年生えてくるので、必要になった時にそれで屋根を葺き、その屋根の下で生活をすることは、理想的で美しいと思います。近年は、屋根で使われていた古いヨシを、農業をされている方々が引き取って畑などで活用してくださっており、土に還る「循環」の仕組みができたこともありがたいですね。

瓦屋禅寺本堂屋根葺替現場
説明会での真田さん

―今後も、ヨシの保全やヨシ産業を続けていくためにはどのようなことが考えられますか。

真田さん　ヨシを必要とし、活用していくことが大切だと思います。使い手がいれば、ヨシの刈り取りは続けていくことができ、ヨシの保全ができます。私たちは、ヨシ葺屋根の修理を続けていきたいと思いますが、それだけでは十分ではないので、親方（竹田勝博氏）は西の湖ヨシ灯り展を通して、みんなに、ヨシの活用方法を考えて欲しいと訴え続けています。ヨシに触れ、作品を作ることでヨシを知り、たくさんの灯りの集まる西の湖を訪れ、その美しさを感じてもらいたい思います。

この先もヨシ刈りを続けていくためには、もっと多くの人に関わってもらえる仕組みができないかとも考えています。刈ったヨシを一束いくらという形で買取る昔からのシステムを地域の場づくりを兼ねて、ゆるやかに再生できないかと思っています。私も子育てに時間をとられていますが、子連れのお母さんなどが刈り取りや仕分けをして働く、そのそばで子どもたちが遊び、それを見守る人やサポートをする人などがいる。これらの人が収入をシェアするというイメージです。「今日は子どもが泣いたから3束しか刈れなかった」みたいな日があっても、その日は子どもとそこで遊んだ時間、という感じでゆるく過ごせる場にもなればいいなと考えています。実現には課題が多く、なかなか構想が進みませんが。

― 最後に、今後の目標をお聞かせください。

真田さん　東近江に瓦屋禅寺というお寺があり、まだ見習いの頃、住職から5年後に葺替えて欲しいと言われ、ずっとそれを目標にしていましたが、ようやく実現しました。

現在、親方から会社の多くのことを任せてもらいましたが、毎日が必死すぎて、まだ余裕がない状態です。次の目標は「やはりヨシ葺はいいですね」と言ってもらえるよう、もっと上手に葺けるようになりたいです。ヨシはここにたくさん生えてきてくれるのだから「あの人がいたから近江にはヨシ葺き屋根が残ってる」と言われるように地元で続けられたらいいなと思っています。

職人としては、文化財などを手掛けて多くの人に見てもらい、褒めてもらえることも喜びですが、それにも増して、私としては民家を残してもらえることが嬉しい。今の自分の住まいもそうだったんですが、解体はもったいない、誰かが引き継いで直したらまだ住める、そんな家をこれからも直していきたいです。

淡海ヨシ紀行

～淡海の原風景を訪ねて

第2回　西の湖（近江八幡市）－前編－

西の湖は総面積が約222haの琵琶湖最大の内湖で、長命寺山と八幡山の間の渡合（わたらい）放水路から津田内湖放水路を通じて琵琶湖とつながっています。かつてこの周辺には大小の内湖があり、昭和17年に着手された小中の湖干拓事業で安土内湖と伊庭（いば）内湖が、また昭和21年に着手された大中（だいなか）の湖干拓事業で大中の湖が農地化されましたが、西の湖は干拓後もほぼ昔のままの姿で残されています。

平成18年に西の湖・長命寺川・八幡堀と周辺のヨシ地を含む「近江八幡の水郷」が重要文化的景観の全国第1号として国の選定を受け、その後、旧安土町側の西の湖や河川の一部が追加選定を受けています。

この水郷地帯には良質のヨシが自生しており、中世からヨシの取引が盛んに行われてきました。その背景として、八幡堀から円山町を抜け、大中の湖を経て琵琶湖へ出る航路がヨシの取引に利用されるなど、舟運の便に恵まれていたことがあげられます。江戸日本橋で近江商人が取引した商品に「近江表」、「近江上布」に加えて簾（すだれ）や葭簀（よしず）などがあり、西の湖周辺は近江商人が築いた流通経路を通じて市場を拡大したことにより、ヨシの一大産地となりました。

近代になり、干拓事業などによってヨシ地の面積は減少しましたが、西の湖周辺には現在もヨシ地が多く残されています。特に西の湖の旧安土町側にあたる北岸の砂州には広大なヨシ地が広がっており、地元ではこのヨシ地を「佐々木ヨシ」と呼んでいます。

西の湖では現在も簾や葭簀をはじめとする高級夏用建具に使用するヨシの生産が行われており、「ヨシ刈り」や「ヨシ地焼き」など伝統的な生産方法が残されています。円山町の集落に入ると、生産されたばかりのヨシが立てかけられ、ヨシ葺（ぶ）きの民家や寺も残されているなど、ヨシ群落と人々の暮らしや生業（なりわい）が深く結びつくことによって育まれてきた美しい景観が今も残されています。

円山町の水郷景観

滋賀県 地球温暖化防止活動推進員 リレートーク

今回は常に柔和な笑顔を絶やさず、イベントでお子さんに囲まれているお姿が印象的。
啓発等への参加回数もエリアも懐深く、いつも頼りにさせていただいているこの方です！

居原田　金治さん
東近江市在住

２年程前になります。野洲市のある商業施設で「地球温暖化防止啓発活動」のイベントが行われ、私もその活動に参加して場内で呼び込みをしていました。

そこへ小学生女児が「温暖化のゲームって、どんなことやるの？」と興味津々でおしゃべりをしながら楽しく参加してくれました。

それから、その年の年末、温暖化防止活動ポスター展の入賞者の表彰式が開催され来場者の受付を担当していると、「おじさんこんにちは」と挨拶をしてくれる女児がいました。

なんと、啓発活動のゲームに参加してくれた女児でありびっくりしました。あの時の活動を温暖化防止ポスターに表現して応募し、見事入賞できたのです。いい出会いをさせてもらいました。今後とも温暖化防止活動を続けていきたいと思います。

児童にLED電球と蛍光灯の消費電力の違いを伝える居原田さん

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、知事から委嘱され、温暖化防止にかかる普及啓発を行われています。

滋賀の「CO_2ネットゼロ社会」に
向けた情報をお届け
ネットゼロ通信 2024 vol.11

しがCO2ネットゼロムーブメント

滋賀県では、2050年までに
CO_2ネットゼロ＝排出量“実質ゼロ”に
することを目指しています。

今さら聞けない！？太陽光発電のしくみ
自宅でエネルギーの自給自足が可能に

太陽光発電は、名の通り太陽光をエネルギー源とし、発電時にCO_2を排出しない再生可能エネルギーのひとつであることからCO_2ネットゼロ実現への貢献が期待されています。太陽光発電導入量の面で、日本は中国やアメリカに次いで世界３位となっており、滋賀県内の住宅用太陽光発電システムの導入件数は年々増加しています。

今回は太陽光発電の仕組みや設置前に確認すべきポイントを紹介するとともに、より省エネルギーで防災にも役立つ設備を備えた住宅にするためのシステムについて紹介します。

経済産業省資源エネルギー庁 HP より

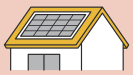
太陽光発電システムのしくみと導入状況

太陽光発電のエネルギー源となる太陽光は、無尽蔵で枯渇しないことから、年々深刻化するエネルギー資源問題の有力な解決策となっています。

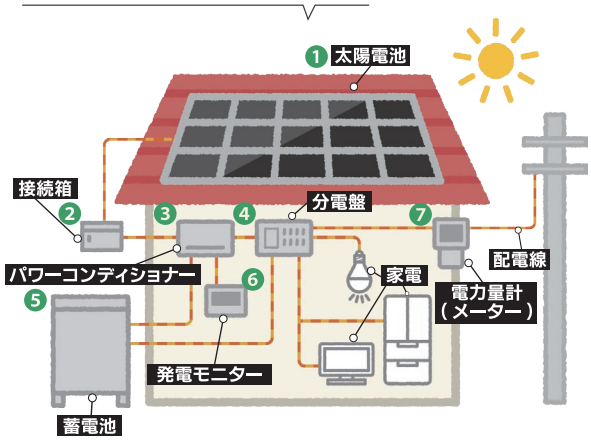
太陽光発電

「太陽電池」と呼ばれる装置を使って、太陽の光を電気エネルギーに変換するシステム。

一社）家電製品協会「スマートライフおすすめ BOOK2021」より



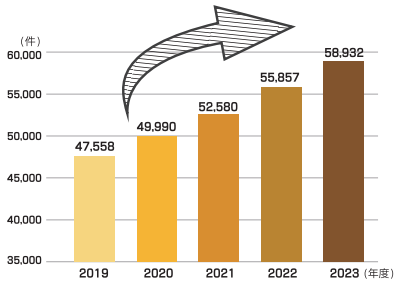
太陽光発電のしくみ



1. 太陽電池が発電（直流）
2. 接続箱で各パネルの電力を集約（直流）
3. パワーコンディショナーで変換（直流→交流）
4. 分電盤で各機器に電力を分配
5. 蓄電池に余った電気を充電
6. モニターで電力使用状況をチェック
7. 電力量計で売買した電気料金を計算

滋賀県内の導入状況

県内の住宅用太陽光発電システムの導入件数は年々増加しています。



住宅用太陽光発電のメリットと設置前のチェックポイント

CO_2削減量 1,275 kg／人　太陽光発電をした場合

環境省「ゼロカーボンアクション 30」より

太陽光発電は、天候や季節により発電量が左右され、導入・維持管理や廃棄に高い費用がかかる一方で、発電時にCO_2を排出しないなど良い点が多くあります。設置前には必ず右記のポイントを確認しましょう。

1 発電時にCO_2を排出しない

▶太陽のエネルギーを電気に変えるため、発電時にCO_2等の温室効果ガスが発生しない

2 設置場所を選ばない

▶日射量さえ確保できれば、一般家庭から大規模施設まで、設置する場所の広さに合わせて自由に規模を決めることができる。

3 電気の使用状況をリアルタイムで確認できる

▶モニターを設置すると、家庭の発電量や電力使用量をその場でチェックでき、節電意識の高まりが期待できる

4 停電時に非常用電源になる

▶蓄電システムがあれば、突然の停電にもバックアップ電源として電気を使用することができる

5 発電した電力が余れば電力会社に売電できる

▶多くの太陽光発電システムは電力会社の配電線とつながっており、発電電力が消費電力を上回った（**消費電力＜発電電力**）場合は、電力会社へ送電して電気を買い取ってもらい、曇りや雨の日など発電した電力では足りない（**発電電力＜消費電力**）時や夜間などは、従来通り電力会社の電気を使う

設置前のチェックポイント

屋根・自宅周りの状況
▶ご自宅の屋根の向き・面積・勾配のほか、周りに高層建築物や樹木など太陽光を遮るものが無いか事前に調べておこう
中には設置に向かない住宅もあります

光熱費・生活パターン
▶過去１～２年分の電気代・ガス代、その他光熱費を調べておこう。また、昼・夜のどちらに電気を多く使用するかを確認しよう

運転開始～発電終了（廃棄）までの全体の流れ
▶設置に際しては設置業者による現地調査や電力会社等への手続き、廃棄の際にも届出の提出など、必要な作業がある

設置業者の調査・見積り
▶必ず複数業者からとり、費用を比較検討しよう。自宅の設計図面を準備しておくとスムーズになる

信頼できる業者かどうか
▶システム全体、部品ごとの保証内容やアフターフォロー等の性能保証についての条項を確認する

自治体の補助制度
▶受付期間や申請方法などを確認の上、要件に合えば資金負担を減らすことができる

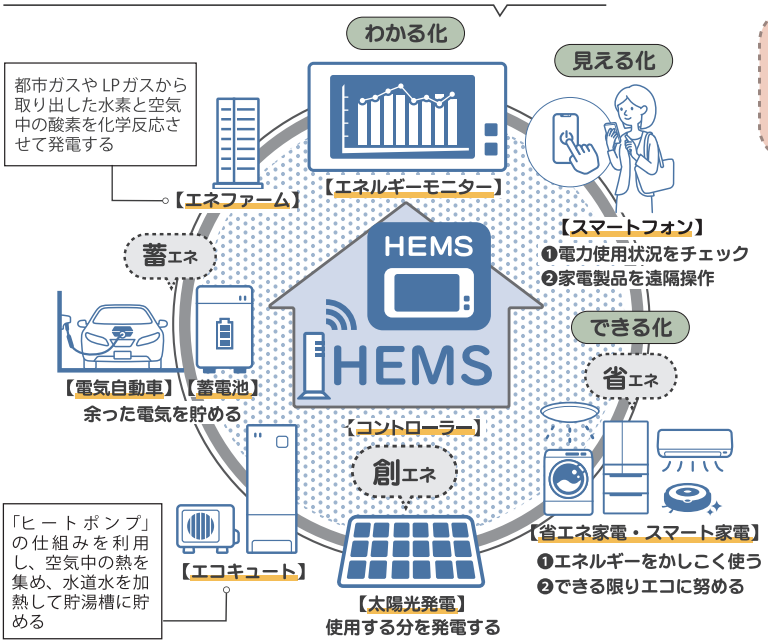
一社）家電製品協会「スマートライフおすすめ BOOK2021」，一社）省エネルギーセンター「省エネ・脱炭素エキスパート検定テキスト」より

防災にも役立つ！省エネ住宅を構成する重要なシステム

一社）家電製品協会「スマートライフおすすめ BOOK2021」
一社）省エネルギーセンター
「省エネ・脱炭素エキスパート検定テキスト」より

ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）には、HEMS が大きな役割を果たします。このような省エネ・創エネ・蓄エネの設備機器を備えた住宅のことをスマート・ハウスと呼びます。また、V2Hや蓄電池の活用は光熱費を削減できるだけでなく、太陽光発電でつくった電気を蓄えておき、夜間や停電時の非常電源に使用することができます。

HEMSでもっと上手にエネルギーを使えるように！



HEMS（ヘムス）（Home Energy Management System）

エアコンや照明などの電気を使う家電製品（「省エネ家電」）と、太陽光発電システムなどの「創エネ機器」、発電した電気などを蓄える「蓄エネ機器」をネットワーク化し、家全体のエネルギーを管理するシステム。

一社）家電製品協会「スマートライフおすすめ BOOK2021」より

EV⇄家庭 双方向の給電を可能にするV2Hのしくみ

V2H（ブイ・ツー・エイチ）（Vehicle to Home）

電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHEV）に蓄えられた電力を家庭で使用することができるシステム。V2H 自体に電気を貯める機能は無いが、EVやPHEVを蓄電池本体のように使うことで、蓄電池同様の役割を持たせることができる。

関西広域連合「燃料電池自動車 FCV って何だろう」より

補助金紹介

次世代自動車普及促進事業補助金

スマート・ライフスタイル普及促進事業補助金

申請受付中！

滋賀県では、個人の既存住宅における ZEH の普及と省エネの推進を目指した『スマート・ライフスタイル普及促進事業補助金』と、次世代自動車の購入に対して補助をする『次世代自動車普及促進事業補助金』を設けています。

個人の既存住宅対象！

		基本対策推進事業	重点対策加速化事業	
		補助金額（定額）	補助率等	補助金額（上限）
スマート・ライフスタイル 普及促進事業補助金	太陽光発電システム	4 万円	7万円/kw	30 万円
	高効率給湯器（エネファーム）	6 万円	1/2	35 万円
	高効率給湯器（エネファーム以外）	2 万円	1/2	10～22 万円
	家庭用蓄電池	5 万円	1/3	30 万円
	断熱改修	2 万円（窓のみ）	1/3	120 万円
	太陽熱利用システム	2 万円	－	－
	V2H（ヴィークル・トゥ・ホーム）	4 万円	－	－
	高効率空調設備	－	1/2	5 万円
	高機能換気設備	－	1/2	5 万円
	高効率照明機器	－	1/2	1 万円

次世代自動車 普及促進事業補助金	電気自動車（EV）	10 万円
	プラグインハイブリッド自動車（PHEV）	10 万円
	燃料電池自動車（FCEV）	20 万円

国の補助金（CEV補助金）と併用可

【申請期限】 2025 年 2 月 14 日 17:15 必着

- 期限内であっても予算に達した時点で受付を終了します。
- **交付要件や提出書類等については、必ず《補助金交付要綱》および《補助金申請の手引き》をご確認ください。**

▲詳細はこちら
＜https://www.ohmi.or.jp/ondanka/subsidy/＞

【問合わせ先】

公益財団法人 淡海環境保全財団（滋賀県地球温暖化防止活動推進センター）
TEL：077-569-5301　E-MAIL: pv@ohmi.or.jp

おうちでやってみよう！ ネットゼロアクション

- 太陽光発電のしくみを知ろう
- お住まいの自治体の補助金を活用して太陽光発電システムの設置を検討をしよう
- 導入前には、前頁右下のポイントをチェックしよう
- モニターや電力会社のサイトで家庭の電力使用量を「みえる化」しよう

イベントレポート

「まいばら親子エコステーション2024」が開催されました

9月16日、米原市役所で、米原市が主催し、当財団が企画運営を行った「まいばら親子エコステーション」が開催され、家族連れら500人を超える来場者が環境問題について学ばれました。

今年で2回目となるこのイベントは、地球温暖化防止について市民に理解を深めてもらう目的で開催され、市内外の企業や市民団体の協力のもと、さまざまな体験学習ブースや、EVバスやエコカーの展示、子ども服リユースやフードドライブのコーナーなどが並びました。また、オオムラサキ研究家の蝶（ちょう）たろうさんによる「チョウ暑いだけではすまない ～ちょうとおんだんか」と題したトークショーや標本制作に参加者は夢中になっていました。

とりわけ、今回は地球温暖化防止活動推進員の皆さんの協力で設けた温暖化防止の啓発ブースのほか、当財団がヨシのネックレス制作、下水道の啓発や「おうみっ肥」のPRブースを出展し、持続可能社会の実現に向け、脱炭素とあわせて自然共生や資源循環についても学んでもらおうと財団の総力をあげて取り組みました。

来場された皆さんがこのイベントをきっかけとして、自分にできることを考え、今後の行動に移していただくことを願っています。

イベント情報　10-12月

最新情報は財団ホームページをご覧ください。

イベント名	開催日	時　間	場　所	内　容
淡海ヨシボランティア ※要事前申込	11月3日 (日･祝)	13:00 ～15:00	野洲市 菖蒲地先	びわ湖のヨシ原を広げるため、当財団で育成したヨシ苗を植えていただきます。
しが「デコ活」推進フェア 講演会・ディスカッション 「気候変動と自己肯定感 ～みんなが知れば必ず変わる～」 ※要事前申込	11月30日 (土)	14:00 ～15:30	コラボしが21 大会議室	 講師:谷口 たかひささん 世界中で活躍されている谷口たかひささんに体験を踏まえたお話をいただき、皆さんとのディスカッションをします。

ご寄附をいただきました（京セラTCLソーラー合同会社様）

当財団の事務所がある矢橋帰帆島でメガソーラー事業を展開されている京セラTCLソーラー合同会社様（京セラ（株）・東京センチュリー(株)出資）から当財団が実施する環境啓発活動の資金としてご寄附をいただき、髙木理事長から感謝状を贈りました。

編集後記

先日訪れた満月寺浮御堂で、湖中に立つ句碑の存在と、その基礎部分が水面からむき出しになっていることに驚きました。地球温暖化の影響で今後災害が激甚化、頻発化するとされている中で、琵琶湖の渇水についても危機感を持ち行動変容へつなげなければと思いました。

あすの淡海 VOL.47 | 2024 秋号（年4回発行）

発行
公益財団法人 淡海環境保全財団
〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108番地
TEL：077-569-5301
FAX：077-569-5304
E-mail：info@ohmi.or.jp

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター
TEL：077-569-5301　FAX：077-569-5304
E-mail：ondanka@ohmi.or.jp

淡海環境プラザ
TEL：077-569-5306　FAX：077-569-5334
E-mail：plaza@ohmi.or.jp

VEGETABLE OIL INK
●用紙：再生紙を使用
●インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ）